



画家の助言の下、彩色に取り組む施設利用者＝3日、霧島市の国分シビックセンター

慈善絵画展で支援

■国分・6日まで

霧島市の国分シビックセンターで3日、同市の就労継続支援施設「ワークシヨップOHANA」

利用者と静岡県在住の画家山本宗平さん(41)との交流会があった。5人の利用者は山本さんの助言を受け、鮮やかな色使いで絵を完成させた。

宝船を鉛筆で描いた5

人に、山本さんが「誰に何を伝えたいかを考えて」などとアドバイス。見る人に幸せが訪れることを願う、ピンクや黄色など明るい色を使って完成させた。

4～6日に同会場で開くチャリティー企画「現代国際巨匠絵画展」の一環。完成した絵は絵画展入り口に飾られるほか、デジタルデータを希望者に無料配布する。

絵画展では山本さんの作品約50点を含む120点を販売。利益は全てワークライナ支援などに寄付する。

(有田佳織)